

特集

# 日本遺産認定 10 周年 三川内焼 受け継がれる技、つなぐ未来

2016年に日本遺産に認定された「日本磁器のふるさと肥前～百花繚乱のやきもの散歩～」は、ことし4月に認定10周年を迎えます。さらに5月には、三川内焼の魅力を発信し続けてきた「はまぜん祭り」が第40回を迎えるなど、ことしは三川内焼にとって大きな節目の年です。

今回の特集では、三川内焼を佐世保の誇りとして改めて感じてもらうため、三川内焼の歴史や技、そして未来を見据えた挑戦を紹介します。

## 日本遺産

「日本磁器のふるさと肥前～百花繚乱のやきもの散歩～」とは

長崎県と佐賀県に広がる陶磁器産地を舞台に、日本磁器の誕生から現代へと続く物語を伝えるストーリーです。長崎県、佐賀県、佐世保市、平戸市、波佐見町、唐津市、伊万里市、武雄市、嬉野市、有田町の二県八市町が連携し、肥前―帯を「やきもの文化圏」として発信しています。

約400年前、有田町で磁器の原料となる陶石が発見されたことをきっかけに、日本で初めて本格的な磁器づくりが始まりました。その技術は三川内を含む周辺地域へと広がり、産地ごとに個性豊かな焼き物が誕生しました。やがて日常使いの器として全国に広まり、海外へも輸出されるなど、肥前の磁器は日本の焼き物文化を象徴する存在となってきました。

各産地にある窯跡や神社、町並みなど日本遺産の構成文化財を巡り、今も息づく技や人々の営みに触れる「やきもの散歩」は、歴史と文化を体感できる旅です。三川内焼もその構成資産の一つとして、肥前の物語に奥行きと魅力を与えています。



JAPAN HERITAGE  
日本遺産



肥前やきもの圏 HP

## 構成文化財（三川内焼関連）

- ・三川内三皿山
- ・三川内の磁器窯跡群
- ・陶祖神社、釜山神社
- ・三川内の磁器製作技術
- ・陶祖祭
- ・窯業道具の供養 など



三川内三皿山（三川内皿山）



今由窯跡（単窯）



陶祖神社



磁器製作技術（透かし彫り）

## 継承される至高の技と、進化を続ける三川内焼の今

### 400年受け継がれる技術

三川内焼の技は、平戸藩の御用窯として発展する中で磨かれました。藩の保護のもと、良質な原料と分業体制が整えられ、将軍家への献上品も手がけ、高い品質と品格で知られるようになりました。厳しい品質基準も技術向上を支えてきました。

代表的な技法には、光を通すほど薄く仕上げる「薄づくり」、細かな文様を彫り抜く「透かし彫り」、花びらを一枚ずつ重ねる「菊花飾り」があります。また、土を盛り上げて模様を表す「置き上げ」や、ろくろを使わずに形をつくる「手びねり」など、多彩な手仕事も受け継がれています。



※左：三川内町の伝代官所跡出土品。

### 白磁に映える藍の美しさ

江戸時代、平戸藩は藩の御用絵師の図案を三川内に提供し、質の高い染め付けが作られるようになりました。余白を生かした上品な染め付けや、唐子絵に代表される物語性豊かな絵付けも三川内焼の魅力です。白磁の透明感と藍の濃淡が調和し、静けさの中に奥行きを生み出します。華やかすぎない気品ある美しさは、長い歴史で磨かれた美意識の結晶です。積み重ねた技が、三川内焼ならではの格調高い世界を今に伝えています。



伝統的な唐子絵

### 伝統を守りつつ、新たな挑戦へ

代々受け継がれてきた技を大切にしながら、新しい表現にも挑戦しています。文様を彫りで表現する「陰刻手」など、青い模様が特徴の染め付けとは違った表現も広がっています。昔ながらのデザインをもとに、陰影を感じられる工夫も取り入れられています。若い職人も加わり、今の暮らしに合った器づくりにも取り組んでいます。また、体験イベントや展示会を通して、その魅力を伝える活動も進んでいます。伝統を守る気持ちと、新しいことに挑戦する姿勢が、三川内焼の未来を支えています。



陰刻手

### 登り窯が描く表情

もう一つの挑戦が、登り窯での焼き物づくりです。薪をくべて焼くことで、炎の動きや灰のかかり方によって、同じ形の器でも、仕上がりは全て違い、それぞれに味わいがあります。焼き上げには長年の経験が欠かせず、窯焚きはとても大切な作業です。時間も手間もかかりますが、土と炎がつくり出す自然の美しさを大切にしています。

### 登り窯での作業の様子を動画でプラス



YouTube「佐世保市チャンネル」  
広報させばプラス

人がつなぐ三川内焼  
～職人の声～



熟練職人

かくしろうがま  
嘉久正窯

里見 寿隆 さん

次世代を担う若手職人

ひらどしようざんがま  
平戸松山窯

中里 彰志 さん



伝統を守りながら、  
次世代を育てる産地づくりを目指して

私の家は代々続く窯元です。就職を考える際に改めて家業を見つめ直し、この仕事の良さに気づき、跡を継ぐことを決めました。

三川内焼の魅力は、江戸時代から続く長い歴史と伝統的な技法、そしてその技によって生み出される繊細な器や装飾品にあると思います。薄手であることや細やかな絵付け、余白を生かした写実的な絵柄が、三川内焼ならではの特徴です。近年は文様柄の需要も増えており、そうした作品も手掛けていますが、写実的な絵を継承していくことも大切にしたいと考えています。

今後は、新たに三川内でなりわいを立てたい人を受け入れ、育成できる環境づくりが必要になります。新しい人たちと融合しながら発展していくことが、今後の課題であり目標です。はまぜん祭りでは、昨年「新人アーティスト展」を開催し、若手作家の作品を展示しています。来場者からも好評をいただいております。こうした取り組みが将来につながっていくと感じています。人材の育成と受け入れの体制を整え、10年後には、今以上に活気のある産地にしていきたいと考えています。



(取材日 2月27日)

「受け継ぐ技」と「自分らしさ」でつなぐ、  
三川内焼の伝統と未来

三川内焼には長い歴史と伝統があり、十数代にわたって受け継がれてきました。一人の人間が一生をかけた作品づくりや試行錯誤を重ねることには限度がありますが、父が積み重ねてきた経験や仕事ぶりを見ながら、自分なりの道を考え、歩いていくことで、伝統は少しずつ進化していくのだと感じます。これが三川内焼の魅力だと思います。

私は「伝統＝技法」だと考えており、技法を身に付けることでより良いものを作ることができます。その技法を自分の作品にどう取り入れるかが、「新しさ」につながるのだと思います。若い頃に技法を習得し、それを自分なりに昇華させることで、これまで守られてきた品質が保たれていくと考えています。そこに「自分の感性(自分らしさ)」を加えることが、新しい表現に挑戦することだと感じています。

これから30年先になれば、窯元の数も大きく減ってしまう可能性があり、将来を見据えてこれからの10年間をどのように活動していくかが重要です。仕事の面では「技法×自分の感性」で新しいものを生み出し、より良いものを作っていきたいと考えています。また、産地としては、若い仲間を増やして、みんなで大きな塊になって、三川内焼の技法を守り続けていきたいです。



(取材日 2月20日)

第40回  
三川内焼窯元 はまぜん祭り

5月1日(金)～5日(火)

9時～17時  
三川内皿山一帯



※三川内焼伝統産業会館はリニューアル工事のため、令和8年4月1日から一時休館です。再開館は令和10年11月頃の予定です。

焼き物を窯で焼くときに使われる道具「はまぜん」は、一度使用されると捨てられてしまうものですが、焼き物を作るときには欠かせないもの。この「はまぜん」に深く感謝の意を表し、その供養を行います。

今回の「はまぜん祭り」では、40回目の節目としてさまざまな特別企画を開催します。皿山の情緒あふれる景観や、窯元と直接触れ合いながらのお買い物などを通して、焼き物の里「みかわち」をたっぷりとお楽しみください。

※伝統産業会館前の無料駐車場をご利用ください。

※シャトルバス(伝統産業会館前駐車場～はまぜん祭り会場～JR三河内駅)を20～30分間隔で運行しています。

特別企画

①五感で出会う三川内焼

嗅覚(茶香炉)、味覚(酒器や茶器)、触覚(アクセサリー)、聴覚(おりん)、視覚(花器)をテーマとした企画展示・販売を行います。また、はまぜん祭り限定の陶箱弁当(平戸寿司)や三川内焼とコラボした限定スイーツも販売します。

場所 三川内山公民館、泰平や

②特別絵付け体験～神業に挑戦～

三川内焼の職人の指導の下、職人が普段使用している道具を使いながら絵付けを行う特別な体験です。

日程 5月4日(日) 13時～

場所 三川内山公民館 料金 10,000円

※作品は窯で焼き上げて後日郵送します。

③三川内焼オークション

美術品や新作などが並びせり上がり式のオークションです。掘り出し物がお得な価格で購入できるチャンスです。

日程 5月3日(日)～5日(火) 11時～、15時～(1日2回開催)

場所 三川内山公民館

④窯元スタンプラリー

会場内の窯元を巡るスタンプラリーです。窯元を巡った後は豪華景品が当たるガラポン抽選会があります。

料金 無料

⑤新人アーティスト展

3人の新人アーティスト(藤川匠さん、板垣伊織さん、林民和さん)による新作展を実施します。

場所 古い窯場跡

特集に関する問い合わせ ふるさと物産振興課、文化財課 ☎24-1111